

第4回
定例会

小児医療費助成条例一部改正案を可決

鎌倉市・葉山町と同様に就学前 **すべて** の子どもの医療費が無料になります

◎賛成(11人)

岩室年治(共産党)	橋爪明子(共産党)
高野典子(公明党)	田中英一郎(公明党)
長島由里(民主党)	小林和茂(民主党)
高野毅(民主党)	毛呂武史(太陽)
原口洋子(市民自治)	奈須和男(市民自治)
関口正男(無会派)	

※第4回定例会は11月25日開会し、12月10日に条例を可決、閉会しました。
※定数22人(欠員1) 現員数21人

×反対(10人)

菊池俊一(次世代)	松本真知子(次世代)
草柳博(政風会)	岡本勇(政風会)
須田隆(政風会)	塔本正子(創造)
森典子(創造)	真下政次(創造)
君島雄一郎(無会派)	高谷清彦(太陽)

12月21日(月)

臨時会 本会議
条例の再審議

平井市長が改正案に反対し、再議(再審議)を求め臨時会が招集されました。みなさんの傍聴をお願いします

●臨時会は10時開会、池子問題の市長報告(傍聴可)後、本会議(傍聴可)を再開し、条例案の審議となります。※詳しくは議会事務局に873-1111

再議の場合、過半数議決ではなく、出席議員の3分の2(14人)以上の賛成が必要です。但し、今回の改正案の一部を修正すれば、過半数の議決で再度可決させることができます。そのため14人を確保できるか、修正案を提案できるかに成否がかかっています。

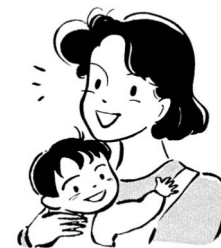
議員提案

●議員提案された条例の改正案の内容は…

小児医療費助成条例の現行制度は通院医療費が0歳は所得制限なし、1歳から就学前までは所得制限を設けて実施されています。そのため約3割の子どもが除かれています。今回の改正案は、所得制限を撤廃し、近隣市町(7市・8町)との均衡を図り、制度の改善を図ることが目的です。

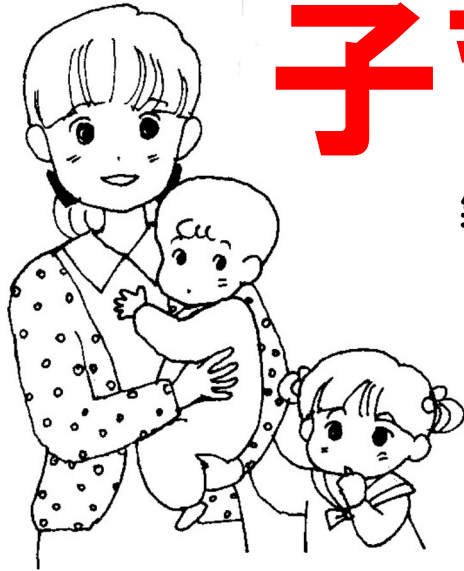
湘南地域の自治体の実施状況調べ

逗子市	0歳所得制限なし、1歳～就学前まで所得制限あり
藤沢市	0歳～小学校6年生まで所得制限なし
鎌倉市	0歳～就学前まで所得制限なし、1年～6年まで所得制限あり
三浦市	0歳～就学前まで所得制限なし
葉山町	0歳～満7歳未満所得制限なし



※制度の解説等は裏面

子育てを応援する逗子へ



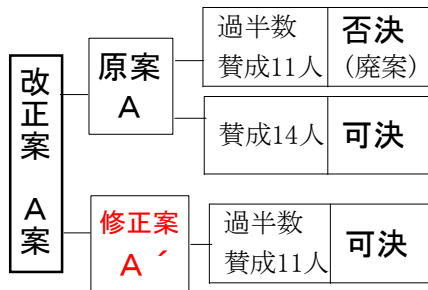
笑顔あふれ、元気な姿は市民みんなの願い
**小児医療費助成制度は
 子どもたちの命と健康を守る制度です。**

近隣市町との大きな格差は、速やかに是正すべきです。議員提案の改正案は、保護者の負担軽減、近隣市と均衡を保ち、財政状況を考慮し段階的に改善を図るものです。

なぜ、平井市長は反対するのか

市長は議員時代の提案に賛成し、今回の提案は認めない。あまりに矛盾した対応です。再議は過去数例しかありません。市長は市民と議会の声を受けとめるべきです。

《再議の表決の流れ》



日本共産党逗子市議団



岩室年治



橋爪明子

議会ルール Q & A

再議(再審議)とは？

市長と議会の政策上の相違を解決する手段として設けられ、市長が議会の議決に対し行なう拒否権(再度審議を求める)のことで、地方自治法176条の一般拒否権(政策判断等)、違法議決(法令違反等)、177条の収支執行不能議決(財源がない)等5種類があります。

再議の場合、過半数の賛成では否決扱い

一般拒否権の再議は、特別多数議決として出席議員3分の2(逗子は14人)以上の賛成者が必要です。過半数11人では否決とみなされ、「改正案」は廃案となります。

再可決に14人の賛成又は修正可決が必要

再審議で賛成者14人を見込めない場合、自ら提案した議案(A案)について一部修正を行ないA'案として過半数の賛成者で可決すれば、その議決は確定し認められます。

平成7年
第3回
定例会

小児医療費助成条例を制定
全会一致で可決

条例制定の目的は、子どもたちの健全な育成支援と健康の増進を図るため、通院費は0歳児のみ、所得制限なしの制度でスタートしました。

平成13年
第4回
定例会

助成制度の拡充を求める請願
全会一致で採択(可決)

「小児医療費助成制度の充実を求める請願」(提出者・新日本婦人の会逗葉支部、紹介議員・岩室年治)を採択されました。請願項目は以下の3点です。

1. 小児医療費助成制度の対象年齢を引き上げる。
2. すべての子供たちに制度が適用できるよう改善する。
3. 他の自治体との格差を早期に是正する。

平成16年
第1回
定例会

議員提案による改正案を提案
全会一致可決、対象年齢を拡大

県内市町村の制度が拡充される状況から、共産党含む超党派の議員提案で「改正案」を提出、可決されました。

当時の長島一由市長は、再議をせずに改正案の可決に理解を示し、予算化がされました。

●議員提案した会派には、当時議員であった平井竜一市長も所属し、「改正案」と請願に賛成していました。

